

松本城鉄砲コレクション

松本城の銃砲コレクションは、141 挺の火縄銃をはじめとする古式銃砲、283 点の銃砲用具、450 点を超える銃砲とその歴史に関する資料で構成されている。これらのほとんどは 16 世紀から 19 世紀にかけてのものである。

このコレクションは、生涯の鉄砲収集家であり、銃器研究家であり、スポーツ射撃家でもあった赤羽道重・か代子夫妻から寄贈されたものである。赤羽夫妻は松本出身で、東京で長年にわたりレストランを運営していた。その間に、日本製火縄銃を中心とする銃砲のコレクションを徐々に増やしていった。

1998 年に、赤羽夫妻は松本市にそのコレクションを寄託した。1999 年に展示替えをして、展示品以外は市博物館に収蔵されている。展示が始まった後も、赤羽夫妻は新たな鉄砲を入手し、コレクションを拡充していった。

大天守は、これらの火縄銃の展示にふさわしい場所である。1593 年から 94 年にかけて建設されたこの天守閣は、火縄銃を発射するための穴が多数あり、壁も厚いことから、火縄銃戦の時代に合わせて設計されていることがわかる。また、松本城には、伝統的な侍の砲術を保存・伝承する実演チーム「松本城鉄砲隊」がある。1990 年に行われた第 1 回演武には、赤羽根か代子氏も参加した。毎年、「松本城を守るためにいつでも使えるようにしてほしい」という赤羽夫妻の意向で、収蔵しているすべての銃を分解・洗浄する。